

第2章 土 地

1. 地形及び位置

本県は日本国のほぼ中央部に位置し、古くには政治文化の中心となっていた。

本県の北半は近畿中央低地区の一部をなし、大阪・京都・三重の府県に接し、政治、交通において京阪神地方とは密接なつながりをもっている。南半は近畿南部の中央にあたり、和歌山・三重の両県とともに近畿有数の山岳地帯を形成している。

本県の重心の経度は東経135度52分で、奈良春日山、三輪山、多武峯、上市、吉野山、天川村川合、十津川村竹筒付近を通過し、緯度は北緯34度19分で、五條市五條、下市町、吉野町、吉野山の金峯神社、川上村迫付近を通過している。

面積は、3,691.09km²で、全国都道府県中第40位、全国面積の約100分の1弱である。南北両極間の長さ103.6km、東西78.5kmと南北に細長い形となっている。

本県の地形は、吉野川に沿ってほぼ東西に走る中央構造線により、南部山地（吉野山地）と中央低地（北部低地）に分かれている。

北部低地帯は瀬戸内陥落地帯の東部にあたり、断層により陥落した地溝盆地である奈良盆地を中心に、これをとりまいて生駒・葛城・笠置の各山脈、竜門山塊、奈良丘陵の山地からなる。奈良盆地は南北30km、東西16km、面積約300km²で、海拔40～60mの非常に平坦な沖積層からなっている。河川は盆地の東南隈より流出する初瀬川を主流とし、四周の河川を合して大和川となり、生駒金剛山脈を横断して大阪平野へ流出している。

奈良盆地東側に隣接している大和高原地区は海拔400～500mの高原である。また、宇陀山地は竜門山塊の東に位置し、標高100m前後の複雑な丘陵地帯をなし、宇陀盆地と高見山麓、室生火山群地帯とからなる。

南部山岳地帯は本県の南部一帯を占める山岳地帯で、東は台高山脈を隔て三重県に南西は和歌山県に北辺は竜門山塊によって大和平野、大和高原地区に接している。中央部は大峰山系によって十津川流域と、北山川流域とに分けられ、大台ヶ原、伯母ヶ峰、山上ヶ岳、大天井岳、武士ヶ峰、天辻峠を連ねる横断山脈によって吉野川流域と分水嶺をなしている。大台ヶ原山や大峰山脈は山岳美、渓谷美に富み、吉野・熊野国立公園に指定されている。

2. 地 質

西南日本における地体構造線である中央構造線は、本県のほぼ中央部を東西に貫通している。このため本県は地質構造上南北の二部分に分かれ、それぞれ西南日本の外帯（南部山地）、内帯（北部低地）に属している。これらの両地帯を構成する諸岩層はさらに古期、新期の二種類に分けることができる。したがって、本県の地質は基本的には北大和（内帯）、中央帯、南大和（外帯）に三大別され各部分には古期岩層と、新期岩層とがあるので、結局六つの単元に分けられることになる。（参考文献：堀井甚一郎著「奈良県地誌」）